

鎌倉市教科用図書採択検討委員会（第2回） 会議録

日 時 令和元年（2019年）年7月10日（水） 15：00 開会  
18：30 閉会

場 所 深沢学習センター 第1集会室

出席者 杉並委員 關根委員 小日山委員 磯部委員 三好委員  
鈴木委員 三上委員 大原委員 山本委員 近藤委員

事務局 石川教育指導課長 竹澤指導主事 上指導主事 佐藤指導主事  
池邊指導主事 山内指導主事 太田指導主事 坂本指導主事  
鈴木指導主事 山美指導主事 赤山指導主事

次 第

- 1 開会
- 2 種目ごとの説明、協議等
  - (1) 調査員会の説明及び検討、協議等
  - (2) 今後の日程
- 3 閉会

委員長 鎌倉市教科用図書採択検討委員会の第2回委員会を開催する。本日の会議録署名委員を小日山委員と山本委員にお願いするがよいか。

委員 (よい)

委員長 それでは、本日の流れについて事務局から説明をお願いします。

事務局 本日の半日日程と22(月)の全日日程で、調査員報告書などを元に検討していただく。検討種目の順番だが、調査報告書目次の中で、道徳を一番始めに、英語を理科の後にさせていただきたい。

会議の流れでは、種目ごとに最初に資料の確認をしていただき、その後に種目担当指導主事より調査員報告について説明させていただく。その後、その報告についての質疑を願う。質疑後、暫時調査研究の時間をとらせていただき、調査研究の後、種目ごとに協議・研究に入らせていただく。以上。

委員長 今事務局から説明があったが、質問はあるか。

委員 (なし)

委員長 事務局 資料の確認をお願いします。

事務局 本日用意した資料は、神奈川県教育委員会小学校用教科書用図書調査研究の結果、令和2年度(2020年度)使用教科用図書採択検討委員会調査員会種目別調査資料、令和2年度(2020年度)使用小学校教科書編集趣意書、学校調査票のまとめであり、以上の資料は、御机上に配付している。

また、教科書見本本(種目ごとに机前に)、教科書展示会での市民の声のアンケート、学習指導要領については、入り口付近のテーブルに用意してある。

以上が本日の調査研究の資料となる。

なお、参考として、昨年度までの、「全国学力・学習状況調査」の分析結果、「かまくらっ子」の実態調査、「かまくら教育プラン」も用意した。

続いて、資料について簡単に説明する。鎌倉市調査員会種目別調査資料は、調査員会の報告である。のちほど担当の指導主事より説明させていただく。

神奈川県教育委員会小学校用教科書用図書調査研究の結果について、神奈川県教育委員会が神奈川県教科用図書選定審議会からの答申を受け作成されている資料である。

学校調査票は5月15日から市内小学校16校に見本本を巡回展示し、お手元にある調査用紙にある「共通な観点」、「教科・種目別の観点」、「本校児童にふさわしいか」という3つの観点で各校調査研究したものについて、まとめたものである。

教科書展示会については、市中央図書館を会場に6月12日から6月17日までの6日間で一般市民を対象に教科書各種目見本本、趣意書、採択の流れ、教科書目録、採択方針などを展示した展示会にいらした方の意見をそのまま綴じたものである。6日間で来場者は65名となった。

以上。よろしく願います。

委員長　　ここまででご質問はあるか。

委員長　　事務局からの調査員会での内容説明の前に、本委員会で作成する報告書の総合評価について、第1回の検討委員会で確認した。内容を改めて確認する。評価については、検討結果の欄に◎と○を合わせて3つまで付すとし、それぞれの種目ごとに、協議・検討し決めていくこととする。

○は 鎌倉の生徒にふさわしいと検討委員会で判断した教科書。さらに、◎は 鎌倉の生徒によりふさわしいと検討委員会で判断した教科書とし、それ以外の教科書については記号を付さないこととする。

以上、確認する。

何か評価について質問・意見はあるか。

委員　　調査員の作成した資料を見せてもらった。各種目とも短期間にもかかわらず、各教科の特徴を的確に指摘している。

各教科・種目の専門の先生方が調査をし、まとめたこの資料を重視し、併せて県や学校からの調査内容も参考にして、鎌倉の児童たちにふさわしい教科書を選んでいく。従って、この資料の文言について、意見交換していく中で評価をつけていく協議の進行でどうか。

委員長　　今、協議の進行について意見が出たが、どうか。

委員　　(異議なし)

委員長　　他に質問・意見はあるか。

委員　　(なし)

委員長　　それでは引き続き調査報告について説明をお願いします。

事務局　　では、調査資料について説明する。5月7日開催の採択検討委員会の指示を受け調査員に「県の採択方針にある調査研究の観点に基づき、種目ごとに特徴的なことを記述する」という内容を確認した。

また、調査員が個人の立場でなく、種目別に調査員会として調査資料を作成する。種目ごとに調査員全員がすべての教科書の調査・研究にあたり、全員の総意として資料を作成する、ということで報告書をまとめることとした。

5月14日、6月5日、26日の3回調査員会を開催し、取りまとめることができた。

それでは種目別の調査資料については、担当指導主事から説明する。  
検討時間等を考慮し、報告の順番を入れ替えていただく。

委員長 では、1種目15分～20分程度を目安に、8種目程度の検討を目標にできればと思う。まず、道徳の担当の方お願いする。

事務局 道徳について説明する。

#### 東京書籍

「いじめのない世界へ」では、いじめを直接的に扱った直接的教材を、「いじめをしない、許さない心」を育てる間接的教材を扱うことで、複数時間にわたり、いじめのことを深くじっくり考えることで多面的な学習につなげている。

「問題を見つけて考える」教材が3年生以上の各学年に設定されており、答えが定まっていないことで児童の問題解決的な学習を促し、様々な考え方を引き出させるようになっている。

「つながる・広がる」というコーナーがあり、他教科との関連、家庭や地域との連携を図ることができるよう、教科等が明示されている。

お互いの考えを伝え合う「出会う・ふれ合う」のページが全学年に二ヶ所設けられ、自己を見つめ物事を多面的多角的に捉えることができる。

#### 学校図書

いじめに関わる教材が年間を通して配置され、スパイラルに学習することによっていじめを多面的に、また、間接的に扱う教材や、人権について考えることで多角的に、児童に考えさせる工夫がある。

各学年にスポーツ選手や、オリンピック・パラリンピックに関する題材が配置されている。

「はじめのいっぽ」のコーナーが巻頭に配置されており、安心して自分の意見を言える学級づくりのための活動が用意されている。

発問などは別冊「まなび」に書かれており、「きづき」には教材しか載せてないため、先入観なく主体的に学ぶことができる。

#### 教育出版

物語に結末が書かれていないものがあり、児童から多様な考えを引き出す工夫がされている。

学びの手引き（上記部分）に示されている、「やってみよう」では、動作化や役割演技を取り入れることで、登場人物の心情や行為に共感することができ、内容項目の理解を深める工夫がされている。

各学年に応じて、「特に大切にしたいこと」が設定され、「生命尊重」については毎年配置されている。

巻頭には「心を見がく」をキーワードにした道徳びらきのページ、巻末には「学びの記録」として振り返りのページが用意されていて、1年間の心の成長をみとる工夫

がされている。

#### 光村図書

物語に正答がなく、児童に疑問を投げかけるような教材で、漫画やイラスト、写真のみのページなど、教材の表現もさまざまであり、児童の多様な考えを引き出すよう、安心して話し合えることで、正答を求めるような授業にならない工夫がある。また、「なんだろう なんだろう」では、思わず考えてしまい、多面的多角的な見方で話し合うことができるようになっている。

教科書全体を通して人権に配慮し、人種、性別、身体的特徴など多様性を用いている教材が採用されている。特に「公正・公平」の教材の中では、現代的な人権に基づいた話が多く、児童の理解を深めやすい工夫がある

いじめ問題や情報モラルについて、「ユニット」で、みんなで考えた課題について、より自分のこととして考えを深めることができるように工夫されている。

B5版のサイズで、児童が持ち運びやすく、使いやすい大きさになっていて、目に優しい色の紙が使われるなど、特別支援教育の観点に基づいて、ユニバーサルデザインの配慮がされている

#### 日本文教出版

全学年、すべての教材に2つの発問があり、「考えてみよう」では教材のねらいに迫り、「見つめよう、生かそう」では自分の今までを見つめる発問が用意されている。

「人とのかかわり」の教材やコラムを「いじめ防止」ユニットとして毎学期配置することで重点的に学習し、直接的、間接的に、いじめに対する人権意識を育てようとしている。

「心のベンチ」では、教材に関連した現代的な課題や身近な生活に関わる教材が多く、考えたくなるページとなっていて、多面的・多角的に考える工夫や、道徳科以外の教育活動とも関連付けられている工夫がされている。

巻末に「ふろく」として、別教材が用意されており、児童の実態に合わせて教材を選ぶことができる。

#### 光文書院

「みんな仲よし楽しい学校」というコラムでは、子どもたちに馴染みのあるキャラクターを用いて、友だちなどと仲良く過ごすことについて考える教材が全学年に配置されている。

教材文のはじめに、児童に呼びかけるようなカタチで、この教材で考えてほしい内容が示されているので、どの子も課題について考えやすくなっている。

巻末「学びの足あと」には、1・2年は表情で振り返る欄、3年生以上では心の矢印で、授業後の心の動きをわかりやすく表すことができる欄があり、1年間の変容をふり返るときに参考にすることができる。

「まとめる」で振り返りのポイントを示し、「ひろげる」で日常生活で生かすヒントや深めるヒントを考えることで、授業を振り返り、他教科の学習や家庭地域での活動に結び付けている。

#### 学研

教材に主題名が記載されていないので、特定の価値観を押し付けず、児童が様々な考えを出しやすくしている。このことで、一定の価値観にとらわれることがなく、多様な意見を持った学習につながられる。

重点テーマである「いのち」について考える教材を連続して掲載し、ユニット学習により広い観点で、深く学ぶことができる工夫がされている。

学年初めに「これが今のわたし」として自分を見つめるページが、年度末に「心の宝物」として学びを振り返り自分の成長を感じるページがあり、年間を通した成長が感じられるようになっている。

A4サイズで見開きを使い、視覚的にゆったりとした紙面となり、児童が学びたくなるような挿し絵や写真がダイナミックに載せられている。

#### 廣済堂あかつき

読み物教材が多く掲載され、道徳教材として長く読まれてきたものや、現代的な課題を含むもの、問題解決的・体験的な学習活動を促すものまで、多岐に渡り資料をそろえている。

教材とは別に、資料として、巻末に命・奉仕活動・ネット社会についての教材が各学年に用意されていて、低・中学年では「安全・防災教育」との関連を図り、高学年では生命を多面的・多角的に捉えられるようにしている。

1つひとつの教材の文章量が豊富で、児童がじっくりと読み物に向かうことで、題材としっかりと向き合うことをでき、未習の漢字にはすべてにルビがついており内容が正確に理解できるようになっている。

別冊「道徳ノート」は内容項目ごとにまとめられていて、項目ごとの振り返りがしやす。また、巻末に「心のしおり」が用意されており、学習の自己評価や振り返りとして活用できる。

委員長 質疑はあるか。

委員長 それでは調査研究を終了し、協議に入る。協議の進め方について諮る。発行者ごとの調査員の報告資料に基づき、ご意見をいただき、評価について協議する。具体的には、調査資料の中で評価すべき点を確認する。評価できる点の多く上がったものを◎、○とする。

総合評価の内容については、できるだけ多くの意見を各委員から出していただき、協議・検討する。調査報告書や県の調査研究、学校調査票のまとめなどを活用する。また、教科によっては途中で調査研究の時間を取る、という進め方でいかがか。

委員長 しばらく時間をとる。

委員長 協議を始める。質疑や意見はないか。

委員 日本文教出版について、1年生でも425グラム、少し重い。学校図書は275グラム。1年生にとってこの差は大きい。

委員 別冊になっているもの、直接書き込むもの、使い勝手はどうか。

委員 2年生では、ワークシートをつかっている。中に直接書くのは使いにくい。できれば書き込む欄はない方がよい。

委員 評価の見取りをするのに、教科書に直接よりは、ワークシートなどのほうがよい。

委員 ワークシートはダウンロードするのか？

委員 指導書にCDがついている。

委員 ワークシートをアレンジしたりする。

委員 使いやすいもの、使いにくいものがあり、児童の実態によって自分でつくることもある。

委員長 小学校の先生の意見を参考に、どれがよいかを考えていきたい。

委員 どれもよいと思うが、使い方を考え、東京書籍がよいと感じる。現場の先生の評価は、光村と東京書籍が多かった。

3年生以上に二つの設問がある。あとは担任の使いやすいように、というシンプルさがよい。また設問の1つは自分事としてとらえる内容となっていて、よい。担任の思いを反映させて使いやすいのではないか。

委員 学校調査票の中で評価が高かった東京書籍、光村、教育出版を比べると、雨のバス停留所という題材をみたとき、東京書籍ほどの教材でも設問がパターン化されているので児童が考えやすい。教育出版、光村はいろいろなパターンがあって、アレンジできるのはよいが、すっきりしているのは東京書籍か。東京書籍は問題解決型で、問題を解決するコーナーで考え方の段階が示されている。お母さんの請求書という内容では、考えのステップが示されているのがよいと思った。

事務局 問題を見つけて考える、は、3年生以上で各学年1つずつ入っている。3年から繰り返すことで、その考え方を身に付ける。

委員 光村は国語的な発問がある。時間が取られる。東京書籍のように2つくらいの発問がある方がよい。

委員 東京書籍と教育出版と光村。手堅いと思う。その中で、光村については、設問が多いという考え方もあるが、逆にその中から選ぶということもできる。道徳部会では、書かせることによって考えをまとめるという作業が必要だと言っている。書かせて考えさせるという観点でみると、そういう設問は光村

が多いのではないかと。

委員 道徳は多様性があるという、いろいろな考え、いろいろな価値観があって共生というもの。そう考えると、パターン化していくことはどうなのか。光村はいろいろな設問があるが、だからこそいろいろな子がどこかにヒットする幅があるのでよいのではないかと。

委員 別の観点で、教育出版。実在の人物を扱っているのでよい。

委員 いろいろな考えものがあった方がよいとも思うが、答えがないというのはモヤモヤするのか。そのモヤモヤがよいのか。

委員 発問はそのとおりしてもよいし、違ってもよいと考えると、題材の違いというのはどうか。

事務局 東書：物語多い、教出：実際の人物、光村：正当のない題材、人権、多様性、写真のみなど、日文：活動、役割演技、光文：オリンピック、パラリンピックが多い、学研：実際の人物や実話、あかつき：いろいろな分野で昔から読まれているもの、現代の課題などである。

委員 状況に合わせた道徳科の指導がわからなくてモヤモヤするという意見がある。題材選びなど、決められたものがよいかということそうではないときもある。

委員長 全部の教科書について、意見を一つでもよいので言ってほしい。

委員 光文は内容が多い。先生がやりきれないのではと思った。目次、見づらい気がする。

委員 日文の1年生を見ると、1～5週目は文字がない。先生の話で進めるのは適切。6週目から初めて書かせる枠が少し小さい。1年の5月で書かせるのはむずかしい。

委員 光文、題名の前に課題が提示されているのは、道徳としては魅力に欠けるが、見通しをもって学習することができるという特徴がある。

委員 あかつき、いろいろなジャンルに題材が分かれている、そういうのもよい。学習の道筋がはっきりしているところは、道徳としてはプラスにならない部分があるのではないかと思う。

委員 学校図書、読み物の後に設問や振り返りがなく、読みっぱなし。発問から先生が考えるのか？学びの別冊につながるのか。



- 委員 書く欄が少ないのではないか。
- 委員 気づきは、本文のみ。学びという本に、発問などが書かれている。2冊セットで使用する。
- 委員 学校図書、文字が小さく読みにくい気がする。とっつきにくいイメージである。
- 委員 友達の考えを書くというのはよいと思う。
- 委員長 時間なので、絞りたい。最後に何かあるか。
- 事務局 補足として、日文が484グラム、学図は285グラムで軽いが、紙が薄い。
- 委員長 3つに絞るというところでは、東京書籍、光村、教育出版でよいか。どれを◎にするか。
- 委員 現場の先生の声がよいのではないか。
- 委員 学校調査票では光村が多い。光村では世界人権宣言がすべて載っていて、人権について重視している。人権とは何かということも6年間で学んでいくことは良い。
- 事務局 多様な教材が乗っているので光村がよいという意見があった。
- 委員長 調査員の意見、学校調査のことを尊重し、光村がよいか。
- 委員 光村について。4年生で比較し、ところどころに入っているコラムで、情報、環境、障害など載っていて他教科とのつながりもあるのではと思った。
- 委員長 では、◎は光村とする。
- 委員長 では、続いて国語の担当の方お願いします。
- 事務局 国語について説明する。

#### 東京書籍

読書の充実を図るため、年間を通して読書に関わる学習内容があり、単元に合わせて多様な図書が紹介されている。

「話すこと・聞くこと」の内容では、誰でも話し合いに参加できる題材を取り上げ、児童の問題意識を引き出すように工夫されている。

「書く」内容の単元が充実している。また、「読む」単元と連携しているものもあり、目的や相手、文章の種類に応じた書き方が学べるようになっている。

読む力を付けるために「音読」「読み取る」「読み深める」「感想や考えを持つ」な

ど、何ができるようになるかが示されている。

#### 学校図書

「この本読みたいな」では、単元に合わせた読書教材を載せ、生活の中で様々な種類の本を読む機会を促す配慮がされている。

「書くこと」では、文章の書き方やまとめ方を学ぶ小教材を、各学年で配置し、思考を深めるツールとして示されている。

「読むこと」では、第4学年以上の下巻冒頭に読み比べができる教材が設定されている。

3年生以上の上巻では、学習の進め方のページが折り込みになっており、開くとどのページの学習をしても、見ることができるようになっている。

#### 教育出版

「本を読もう」や巻末の付録では、同じ作者の別の作品や、同じテーマで書かれている別の作品などがあらすじとともに紹介されている。

「話すこと・聞くこと」では、児童の興味関心をかきたてる身近な場面や、誰でも活動に参加できる題材が設定されている。

「書くこと」では、構成や推敲の段階で、自らの表現内容を見直す視点を示したり、学習後に感想を交流したりして、自己評価や相互評価をする機会が設けられている。

巻頭には、年間を通した各領域での学習が、一目で分かるよう見開きのページで示されている。

#### 光村図書

「本の世界を広げよう」では、本の表紙とあらすじも紹介され、児童が手に取りやすい工夫がされている。また、学校図書館等、身近な図書に関する施設に着目する教材と、読書を日常に広げる教材が、全学年に掲載されている。

情報活用能力の育成のために、「じょうほう」というページを設け、情報と情報との関係を捉えて理解し、情報の整理の仕方が身につけられるよう工夫されている。

「話すこと・聞くこと」では、身近で興味・関心をかきたてられる内容や誰でも活動に参加できる題材が設定され、実際の話し合いの場面を、QRコードから動画で見ることができるよう工夫されている。

「読むこと」の説明文の単元では、1つの単元で、読み方を学ぶ教材と、学んだことを活かす教材の2つを取り上げるなど、確実に読む力が身に付くように工夫がされている。

委員長 質疑はあるか。

委員 東京書籍 さいしょに書いてみようの練習で、1画で書く文字から始まっていてよい。学校図書は「た」や「こ」で始まっている。光村は「いちねん」と「自分の名前」から。「ね」が難しい。書写との関連を考えると東京書籍がよい。

委員 光村は見やすく子どもの関心を引く。

- 委員 光村はポスターやパンフレットを扱っている。プレゼンの活動や総合的な学習の時間にもつながり、学習に広がり生まれる。身近なポスター等にも目が行く。興味深い内容。
- 委員 全ての教科書が「ごんぎつね」を扱っている。物語が終わった後の部分が各教科書で様々。光村がいちばん見やすく視覚的に分かりやすい。教育出版は1.5ページで丁寧に書いてあるが細かすぎて子どもたちが自分たちの考えを出すまでもなく書かれてしまっている。東書も設問が細かくこのままテスト問題になりそうな感じ。光村がシンプルでわかりやすい。
- 委員 光村が一番「どんな力をつけたいか」が明確に出ている。着目すべき点がわかりやすい。巻末の手引きも発問の質がよい。視点の持ち方や「どんな力をつけたいか」が一番伝わってくる。
- 委員 学校図書と光村は「伝統文化」として狂言を扱っている。東書と教育出版には狂言はない。鎌倉の子どもたちは長谷の能舞台に行き、実際に柿山伏を見せていただいていることもあり、鎌倉の子供たちには、狂言の柿山伏が詳しく載っている光村がふさわしいのではないかと考える。
- 委員 光村の「情報」のページが特徴的である。ポスターのような「発信する力」「アウトプットする力」が問われていく中で、国語で「情報」という見方はとてもよい特徴である。
- 委員 教出の調査員資料の「学習後に感想を交流したりして自己評価や相互評価をする機会が設けられている。」とあり、よい特徴だと考えるが具体的にはどこに記述があるか。
- 事務局 いろいろな場所に出てきているが、例を挙げると5年下の16ページ、2年下の70ページ、6年上44ページあたりを見ていただきたい。
- 委員 この部分がよい。やはり自己評価、自分のことを見るメタ認知的視点や相手のよいところを見る視点がこれからとても大切であると感じる。
- 委員 光村のほうは2年上から「まず」「つぎに」「さいごに」というようにつなげて書く文章を繰り返し指導している点がよい。教育出版は「1」「2」「3」のように箇条書きを示している。何回も同じ形式を繰り返すと定着は早い。
- 委員 学校図書は、2年上で「スイミー」を扱っている。物語の終わりの学習の手引きのところで学校図書は文章中の絵をたくさん載せて、「物語の順番に並べましょう」となっており取り組みやすい。
- 委員 学校図書は分冊になっているので持ちやすい。上巻の最後に資料編があり、

発展学習にも使える。

委員 教育出版の4年に点字の表がついている。実際に体験できて良い。

委員 中学年以上に古典が入ってくる。古典の扱い方、韻文、短歌、俳句の扱い方等、日本の伝統文化としてしっかり学ばせる必要がある。光村は4年上・下で「短歌俳句に親しもう1・2」があり、5・6年生では「自分たちで俳句をつくってみよう」となり、鑑賞したうえでつくらせるという系統性を大事にしており良い。古典についても光村は6年生で、中学生で学ぶ古典を一通りダイジェストで扱っており、中学校の学びにつながっていく。

委員 学校図書。見やすい。例えば5年生「新聞から情報を読みとろう」では比較させる新聞記事が多かったり、文章の構成で、「頭括型」「尾括型」「双括型」を図で表したり、資料も子ども目線に立つと見やすく良いと感じる。

委員 教出は振り返りの部分で具体的な言葉が入っており、子どもの感情を引き出せない。その点でも光村はよく考えられている。1年生の漢字が出てくる場所、光村は1年下から出てくる。他の教科書は上の最後に出てくる。漢字の登場の仕方も子どもの関心を引きやすい。

委員 教育出版は物語後のページに「ここが大事」とある。国語の教科書としてどうなのか。

委員長 まとめに入る。協議を見ると、光村図書を◎としてよいか、東京書籍と学校図書を○としてよいか。

委員 よい。

委員長 では、続いて書写の担当の方をお願いします。

事務局 書写について説明する。

#### 東京書籍

毛筆の基本の点画の書き方について、4年生以上の「①学習の準備をしよう」では、朱墨と薄墨による図版が見開きで示されている。

「生活に広げよう」では、書写で学んだ知識や技能を活かすことができるように、他教科の学習や特別活動等と関連付けた教材が掲載されている。目次にも表示があり、各学年2つ設定されている。

3年生以上では、学習内容が左側にインデックスで示されていて、今どんな学習をしているかが分かりやすくなっている。ページ内には学習のポイントを自分で書き込める「書写のかぎ」が設定されている。

AB判のワイドな紙面になっているため、表示が大きく、レイアウトが見やすくなっている。写真例がふたつ横にならべてある。

## 学校図書

毛筆の穂先の動きと点画のつながりを確認できるように、手本の文字を、かご書きで示すなど工夫されている。かご書きは学校図書だけが扱っている。

「書写の資料館」には、手紙やはがき、ノートや新聞の書き方など、学校や日常生活に活かせる資料の掲載や、他教科と関連したローマ字や都道府県などを書き込んで練習することができるように工夫されている。

いつでも確かめられるように、全学年の巻頭に「書くときの姿勢」や「筆の持ち方」が掲載され、QRコードから、画像でも確認できるような工夫がされている。

学習の流れが「確かめて書こう」「考えて書こう」「生かして書こう」（硬筆）「ふり返ろう」の4部構成となっており、必ず見開きで半紙サイズの手本が示されていて、学習の中で使いやすい配慮がされている。

## 教育出版

毛筆の学習の始めと終わりに硬筆で文字を書くことで、学習したことを硬筆の文字に生かすことができるようになっている。

穂先の動きと点画のつながりを意識するために、朱墨と薄墨を使った図版がほぼ全ての教材に掲載され、筆使いが丁寧に扱われている。

書きぞめを扱うページでは、欄外に、文字の大きさや字形のバランスのとり方がわかりやすく示されている。

1～4年生では、運筆の仕方のポイントが理解しやすいように、音声リズムや動物の動作のイラストで示されている。

## 光村図書

毛筆の学習後には、「硬筆のまとめ」等で必ず硬筆の課題を設け、毛筆での学習を、効果的に硬筆に活かす工夫がされている。

日常生活や他教科の学習内容から、教材が豊富に位置づけられ、目次の中の本のマークを見れば一目でわかるように工夫されている。

いつでも確かめられるように、全学年の巻頭に「書くときの姿勢」や「筆の持ち方」が掲載され、QRコードから、画像でも確認できるような工夫がされている。

毛筆では、動物が全身を使ったイラストで、文字のバランスや筆の動かし方が分かるように工夫されている。

## 日本文教出版

穂先の動きと点画のつながりを意識して書くことを身に付けるために、朱墨と薄墨を使った図版がほぼ全ての教材に掲載されている。

「生活と書写」では、手紙の書き方や原稿用紙の使い方、学級新聞の書き方などが取り上げられ、他教科の学習や日常生活に資料として活用できるように巻末にまとめられている。

「書く姿勢」「筆記具の持ち方」「用具の準備と後始末」のページを、広げて一度に見ることができ、いつでも確認できるように配慮されている。

筆の運び方が、色分け、補助線、矢印などでわかりやすく示されている。

- 委員長 意見をお願いします。
- 委員 調査員資料で日文の「教科書への書き込み欄は、右利きでも左利きでも手本を見ながら視写できるレイアウト」とはどういう意味か。
- 事務局 見本が、右や左にではなく上にあるので手に隠れないようになっている。
- 委員 学校図書の表紙は少女漫画のようで、違和感を感じる。男子が嫌がるのではないか。
- 委員 初めての書写の指導は難しい。光村は全学年に動画がありQRコードで視聴できるのがよい。
- 委員 この動画を実際見たが、「足の開き方」「足のつき方」「姿勢」など細かくありよい。
- 委員 「筆のほぐし方」の動画もある。
- 委員 光村は「短歌を書こう」で自分でつくった短歌を書く活動があり、国語科の授業とつながりがあってよい。
- 委員 調査員調査資料にあるように日文の「穂先の動きと点画のつながりを意識して書くことができるように、朱墨と薄墨を使った図版がほぼ全ての教材に掲載されている。」とあり、筆の運び方のお手本として一目瞭然でよい。
- 委員 学校図書は1年生でシールつき。「気をつけたいところ貼る」は1年生の児童には無理ではないか。また遊ぶ原因になるのではないほうがいい。
- 委員 日文、教育出版には左利きの場合の習字セットの置き方の記述がある。
- 委員 東書、見開きで書かれていて見やすい。横帯に「縦画」「横画」「右払い」等の欄があり、「何ができるようになったのか」を振り返るのに使いやすい。
- 委員 どの教科書も硬筆、毛筆だけでなく、ポスターやメモ、リーフレット等の書き方などがあり工夫している。光村は「英語で書いてみよう」や6年では発表用のポスターで「聞き手を夢中にさせよう」があり、「書く」だけでなく「聞く」「話す」まで意識している内容となっている。振り返りに関してもどの教科書も触れているが、光村は「よくできたマーク」「できたマーク」があり、自分で振り返りやすくなっている。
- 委員 光村は見出しのセンスが良い。例えば「～ができるようになろう」と違って「目指せ新聞記者」などがある。

- 委員 日文は1年で水書黒板がある。光村にもある。
- 委員 東書は国語の教科書に新聞について書いてあり、新聞の見出しを生かして書くという取組があり、国語とリンクされていてよい。
- 委員 光村は算数のノートの書き方が1年生であり、よい。4年で百人一首もある。
- 委員 大きさが気になる。B5サイズだと習字セットに入る。光村、日文のサイズがよいのでは。
- 委員 東書、「書写のかぎ」はよいがその分大きい。
- 委員 「書写のかぎ」を言葉で書くようになっている。感覚で覚えるものを、感覚ではなくまとめるのがおもしろい。
- 委員 東書のサイズは机に載せにくいので使いにくい。
- 委員長 まとめに入る。光村図書を◎としてよいか、教育出版と日本文教出版を○としてよいか。
- 委員 よい。
- 委員長 では、続いて地図の担当の方お願いします。
- 事務局 地図について説明する。

#### 東京書籍

東京書籍の地図は、色が鮮やかで、イラストが効果的に使用されている。また、紙面が光らないような工夫がされている。p83、84の「日本の都道府県の統計」は、見開きで、文字が大きく、読み取りしやすい配慮がなされている。

内容に関しては、巻頭の見開きページの世界地図・日本地図は、名所・名産イラストが掲載され、学習の導入時に活用しやすくなっている。また、学習を導くセリフ付きのキャラクターがほぼすべてのページに効果的に使用されており、自主的に学習できるよう配慮されている。

特設ページとして「日本の自然災害」が掲載されており、東日本大震災をはじめ、自然災害に関する情報が豊富で、地震など被害の発生した年月や場所についても分かりやすく説明してある。また、ハザードマップについても取り上げられている。

日本の歴史とその時代ごとの世界の国々の様子や近代の日本の領土の変容が掲載されており、歴史学習でも活用しやすくなっている。

沖縄島のページでは、写真や円グラフも掲載されており、沖縄の特徴が学べるように工夫されている。

日本と世界を比べるページが設けられ、山や川、湖、島などがイラストで見やすく、比較しやすい配置の工夫がなされている。

#### 帝国書院

帝国書院の地図は、児童が学びやすいような配慮をした優しい色調となっている。

内容に関しては、学習内容に関連した地域の産業や町の様子の詳細図が、地方ごとのページにわかりやすく掲載されており、地域の人々のくらしや風土がわかる工夫がされている。

統計のページでは多様なデータが掲載されているとともに、主な農業、工業生産の帯グラフが掲載されている。

始めの p 7～18 にわたり、「地図って何だろう」「地図のやくそく」「地図帳の使い方」が掲載されていて、地図に対しての理解が深まる工夫がなされ、さらに、「地図マスターへの道」が主なページに掲載されており、それぞれの課題をクリアしながら学習ができ、最後に p117 の「地図マスターのまとめ」でふり返ることができる構成となっており、児童が自主的に学習できるよう配慮されている。

委員長 意見をお願いします。

委員 東京書籍、p 81、82 の日本と世界を比べるページがおもしろい。地図帳をたくさん使う学年は4年なので、4年生が使いやすいものが良い。東京書籍は4年生の視覚に訴えるものがある。

委員 東京書籍について。中学校では地図としての役割があるが、小学校では興味を深めるような資料もたくさんあるほうがよいのではないか。世界のページの、世界の料理とか動物とか、新しい資料がたくさん載っていていい。資料が充実している。

委員 東京書籍。4年生の息子のことを考えると、興味を引きやすい紙面である。p 75 からの日本の歴史と世界の関わりは、子供の興味関心を引き付けるものがある。

委員長 統計の表を見比べると東京書籍は、文字が大きく見やすい。帝国書院は、資料が掲載されている分文字が小さい。

委員 東京書籍。p 75、78 のような資料は、歴史とのつながりが多いので、6年生になっても授業で使用できる。

委員長 帝国書院はいかがか。

委員 見慣れているので、見やすいように感じる。帝国書院は「地図マスターへの道」があり、一人でも学習が進められる。

委員 帝国書院は、児童が自主的に学ぶことができている。



委員 防災の視点 p 91 は帝国書院がいい。地図をもとにして災害を考えて行くこともでき、特色といえる。

委員長 では、東京書籍が◎、帝国書院が○ということでよいか。

委員 よい。

委員長 本日の検討については、これで終了とする。次回は、残されている検討の続きを行い、さらに報告書を作成することになる。報告書については、事務局に本日の協議分をもとにその取りまとめをお願いしたいがいかがか。

委員 異議なし

委員長 では事務局に報告書の原案を作成していただき、次回はそれをもとに検討を進めることとする。

委員長 閉会の言葉  
事務局から連絡をお願いします。

事務局 本日の資料については事務局で保管する。  
第3回 については、検討が終了していない種目の検討、事務局から報告書原案の提示、種目ごとに◎、○と文章表現の確認を行う。

会議録署名

令和2年度(2020年度)使用教科用図書採択検討委員会

委員長 ( 蔵部 久子 )

会議録署名委員 ( 小田 理香 )

会議録署名委員 ( 山本 弘子 )